MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 89（年４回発行）

■発行日　平成30年９月30日
■発　行　三春まちづくり協会
■編　集　三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100－１（旧若駒寮）
TEL／FAX（62）3988

『出前懇談会の開催』
― 愛姫以外に、さまざまな方面で活躍した三春の人々 ―
町の課題をみんなで考えましょう

去る八月八日、まほら学習室において出前懇談会を開催いたしました。今回は、歴史民俗資料館主任主査（学芸員）でいらっしゃいます藤井典子さんを講師にお招きし「愛姫以外に、さまざまな方面で躍した三春の人々」というテーマでお話しをしていただきました。

田村氏の庇護のもと三春で生涯を閉じるも謎多き画僧・雪村と彼の庵である雪村庵の歴史。全国に先駆け自由民権運動の機運が高まった三春で、運動を影から支えた人々と、彼らの活動を通して見えてくる自由民権運動の本質。田村学寮建設と運営に尽力した明治期の人々。三春町史において色褪せることのない偉人達についてお話をしていただきました。

【藤井典子さんが要旨をまとめた資料によりお話しされた内容の一部を掲載いたします。】

一、影山正博と河野広中

従来自由民権運動というと、運動や主張の内容などについては憲法制定・国会開設でひとくくりにされており、それぞれの活動などはあまり重要視されていなかったが、言論・出版の自由から商業・生業の自由、教育、婦人参政権に至るまで、実際の主張は幅広く、活動も各々が異なっている。三師会に加わるも演説会などには参加せず資金などの面で支援し、後に福島県産馬会社の社長となった影山正博、女性の権利について「男女同権論」を訳出した深間内基、町民らによる道路新設構想を提案していた三春戸長松本茂のように、全ての人が激化運動に参加したわけでもなく、河野広中と同様に政治の場で活動しようとしたわけでもない。

自由民権運動とは何であったのか、ということから考え直さないといけないのではないか。例えば、和算家の佐久間庸軒は、自由民権運動家と目される人々にも教授しているが、それだけを取り上げて庸軒は自由民権運動を支援した、とは言い難い。しかし、逆にそれまでの間、学問など必要ないとされていた一般の人々が教育を受ける機会を均等に作り、学ぶ楽しさを味わえるようになったのは庸軒塾の成果の一つである。

二、加藤木重教と田村学寮建設

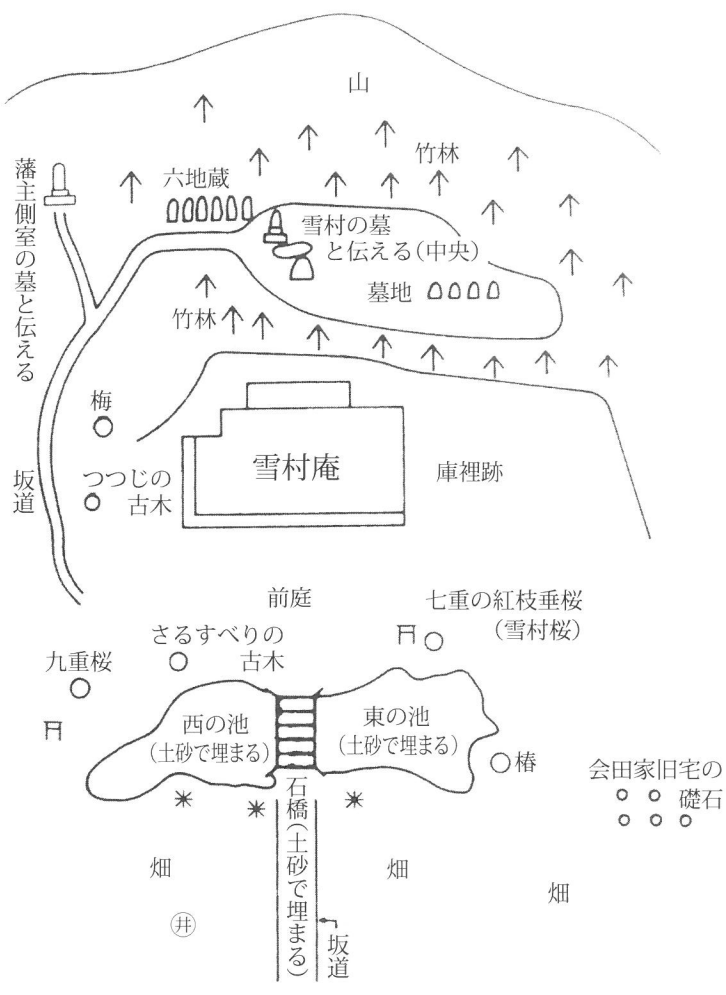
明治四十一年頃に浪岡具雄氏らによって提案された事業が田村学寮の建設であった。学寮は、田村出身者であれば、どのような学校に所属しようとも、上京して学ぼうという人を受け入れるというもので、多少の負担金で、三食付で特段の規則もなく在寮することができた。

浪岡氏らは、故郷の人々などへも呼びかけて寄付金を集め建設に着手した。

木造三階建ての寮の建設は、敷地のことやその後の管理も含めると、多くの資金を必要とした為、河野広中や旧藩主家、加藤木や三浦らの援助も大きかったものと思われるが、三春からの篤志があったようである。

その後、学生には学ぶ資金が必要と加藤木は考えるようになり、かつて三春町内の学校にあった秋田賞や加藤木賞のような賞を創設する他、民間の力で今で言う「奨学金」に似た制度を行おうと呼びかけていた。

子供の貧困や教育の為の奨学金は現代でも似た問題であり、明治の問題は、未だに私達の問題でもあるということができるのである。



雪村庵配置図

三、画僧雪村と一元紹碩

三春藩領にあった雪村庵で画僧雪村（雪村周継）は田村家の庇護のもと絵を描いていたと思われる。

諸説あるが、雪村は現在の常陸大宮市のあたりに永正元年頃生まれた。彼の出自については佐竹氏の出であるとする説が有力。三春へ至ったのは天正元年頃、李田村に庵を構えた。

天正十七年に伊達政宗が会津の蘆名家を滅ぼすまで、雪村は会津と三春などを行き来し、ここで大作を仕上げていたとされる。天正十八年頃、雪村はこの地で亡くなり、雪村庵裏手の竹林にあるお墓の中で、倒れている大きな石が雪村の墓と比定される。

その後、天保二年、三春には秋田家が入り、秋田家ゆかりの僧、一元紹碩が明和三年、三春城下へとやってきた。一元はその際、荒れ果てた屋敷跡と観音菩薩像を発見し、村人に雪村の話を聞いて喜び、ここに庵を構えて弟子を教育した。

一元は秋田家が宍戸（現茨城県笠間市）にあった時の高乾院の住持で、秋田家がその菩提寺などと共に三春へと移るに際して、自身も三春へ移り、隠棲先を探していたと考えられる。「桜梅山　観音寺　雪村庵」はこうしてよみがえり、一元による「雪村庵」の扁額は、現在資料館の常設展示室にある（雪村庵保存会より寄託）。現在残っている建物は、文政十二年に作られたもの。一元のお墓は、雪村のお墓とされる石に寄り添うように立っているものではないかと言われている。

《初心に聴く》
～シリーズ～ ⑬

前号に引き続き、新任委員の方々から寄せられた「まちづくり協会活動に携わる初心」を掲載します。

広報部会
目黒　知希さん

今年度より二年間広報部会員として、「三春わが街」の編集及び発行を通して、まちづくり協会の取り組みに携わらせていただくことになりました。まちづくりという幅広い取り組みを二ページという限られた紙面でお伝えするにあたり、協会員の皆様の取り組みをきちんとお伝することができるように努めてまいります。私は神戸市で生まれ、神戸、東京、会津を転々として育ってまいりました。縁あって三春町に居住してから七年になります。既に地元感覚が芽生えてきてはいるものの、三春町のまだまだ知らない環境、文化、歴史に触れる機会がある度に常に新鮮な感覚を覚え、嬉しく思います。広報部に携わることも、その活動を通して、新たな発見や気づきに出会えそうでとても楽しみです。協会員として、広報部会として、頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

生涯学習部会
佐久間　啓さん

この度、三春小学校ＰＴＡ代表として本会に入会させて頂きました。以前から、本会の活動内容を耳にしておりましたが、総会で自分の全く無知なることに気づき、長年の先輩方の御尽力に深く敬服した次第です。若輩、微力ではありますが積極的な活躍を心がけますのでよろしくお願い申し上げます。さて、僭越ながら物言いで誠に恐縮ですが、私は、三春が歴史や文化や香り高い高尚な町であると信じて疑いません。嘗ては伝統的に文武芸三道も盛んな町でした。ところが、昨今の子供達を取り巻く環境は、追加ごとの連続で余裕が無く、精神文化の衰退が危惧されます。このことからも、まちづくりにはこれらの復興も必要なのではと感じるのです。私事ですが、生業の傍ら、数十年間、墨戯や武医術の研鑽に膨大な時間を費やしてきました。三春の先達から伝授し、三春でしか醸成し得ないものを三春に還元できれば無上の喜びとすることです。

地域部会
鈴木　良さん

今年四月より字常任委員に選出され、「まちづくり協会」活動への同時参加要請を受けまして、どの部会に参加しようか思慮しましたところ、各部会の活動内容を伺いまして、身近に感じられた「地域部会」への参加を希望しました。活動内容としましては町内各所にあります。散策路の整備、補修を主な活動としております。今まで犬の散歩を兼ねて幾つかの散策路を歩いたことがありましたが、歩き易いように管理されており感心していたころに今回のお話を頂き、自分でも何かお役に立てればと参加させて頂きました。散策路は山間部を縫うように設置されていることから、放射線の除染問題も大きな課題であると思われますが、町民の皆様を始め観光客の方々が安心して利用できる散策路の整備を目指して協力させて頂きたいと思っておりますので、諸先輩方のご指導を賜って行きたいと思います。

生涯学習部会
川又　暉之さん

今年から生涯学習部会に参加させていただくことになりました。この度の参加、なぜか不思議な巡り会わせを感じます。私は平成十五年四月から「三春交流館運営協会」に設立当時から参加しております。この運営協会の構成メンバーは各まちづくり協会長推薦者、各代表区長推薦者、それに教育長推選者で構成されています。故にまちづくり協会にはこの十五年大変お世話になってきました。今回、そのまちづくり協会に所属するとは、何かの縁と思います。この部会で毎年行われている講演会、今年は龍隠院のご住職にお話を伺うとのこと。素晴らしい企画だと思いました。一人でも多くの方に参加していただきたいものですね。私たちが行っている運営協会のコンサート等も多くの町民の方にお出でいただきたく、企画、周知に努めてきました。でもお客様は様々でなかなか実際に足を運んでいただくのは大変です。新聞社やテレビ局などへの取材依頼も広報の一つの方策かと思います。

部会だより

福祉部会視察研修会に参加して
佐久間　藤男さん

七月二十五日に、三春南東北リハビリテーションケアセンターへ施設見学に行ってまいりました。施設担当委員の説明では、ここの施設は介護老人保健施設で、看護、医学的管理下での介護、機能訓練を行い、施設においての食事、排泄、入浴などの日常生活のお世話をしながら自宅へ安心して帰るための準備をする処でサービスの内容はロングステイ、ショートステイ、通所リハビリ、訪問リハビリ、があり様々な専門知識・技術を持った施設スタッフがチームで利用者の生活を支えていますと、丁寧に説明をして頂きました。その後施設内を見学させていただきました。

部屋数は個室四十四床、四人部屋五十六床あり、各個人に、整理しやすいタンスがあり自宅で生活しているような感じでした。利用者は医療用のマシンを用いて日常生活では使わなくなって、眠ってしまった筋肉を目覚めさせていくトレーニングをやっていました。パワーリハビリテーションと言うそうです。軽い負荷から始めるので高齢者にも簡単で安心かつ効果的にサポートするそうです。ここは何事にも良くできていて大変良い処だなあと感じました。ここを見学させてもらって日々の食事と健康トレーニングをして健康寿命を延ばし老後を楽しく過ごす生活ができると思いました。

第15回「三春秋まつり」
＆
第11回「石柱拓本ラリー」開催のお知らせ

恒例の“三春秋まつり”が下記により開催されます。三春まちづくり協会も協賛事業として街並部会が中心となり、石柱設置活動の紹介と石柱拓本ラリーの開催を企画し参加の予定です。

記

☆期日：平成30年11月10日（土）～11日（日）
　　両日とも午前９時30分～午後４時
☆会場：三春町運動公園
☆内容：協賛各団体による陳列・即売・イベント等
　　（詳しい内容は「広報みはる」・開催チラシ等で案内されます）

― 町民の皆さん、是非ご参加ください ―

編集後記

先日「お城山まつり」事業の一つで町内の女子中学生の皆さんから両親や家族、友達や先輩など大切な方々に、感謝の気持ちを伝える「愛姫コンテスト」を聞く機会がありました。愛姫が十二歳で伊達政宗の正室となったことに顕彰するとともに感謝の思いを伝えられる大人になってほしいとの企画で浴衣姿の女子中学生十名が素直な気持ちで作文に綴り発表しました▼ペンギンナッツの軽快な進行で、生んでくれて、育ててくれてありがとうと両親へ、支えてくれて、助けてくれてありがとうと友達や先輩へ、家族に愛情いっぱいに生かされている自分をはっきりとしたそれぞれの言葉で発表し、中には感極まりながら思いを伝える生徒さんもおり会場には目頭を押さえる人も▼自分の中に〝感謝する気持ち〟を持つことで思いやりや優しさを身に着けることができ、周りを明るく幸せにすることができます▼感謝する人から感謝される人へと少しずつ感性豊かな人生を歩んでいってほしいと思います。ありがとうと言っても言われても嬉しいものです。当たり前の中に「ありがとう」を見つけてもっともっと幸せになっていただきたいと思います▼感謝を伝える企画をされました関係団体、感謝を伝えられるお子様に育てられた、ご家族様に感謝いたします。（今泉栄治）

コミュニティだより
「三春わが街」第八十九号
発行日　平成三十年九月三十日
発　行　三春まちづくり協会
編　集　三春まちづくり協会
広　報　部　会
三春町大字貝山字泉沢一〇〇―一
（六二一）三九八八